



曲名 予感

片岡輝 作詞
大熊崇子 作曲

この曲は！

2002年に開催された第69回Nコン中学校の部課題曲として、片岡輝さん作詞、大熊崇子さん作曲により発表されました。全59小節からなるキラキラした美しい合唱曲であり、繊細な心情が若々しい感性によって歌い継がれている人気の作品です。

藤原式練習法

- ・ ♩ = 96をまず最初に意識して、4ビートの音符と音符の空間を感じてみよう。
- ・ Fdur（ヘ長調）からGdur（ト長調）に転調することを念頭に置いて、その転調の効果を音楽的に体感しよう。

具体的なアドバイス・ポイント

- ・ ユニゾンを美しく奏でよう。
音の長さ、3連符、タイなどを最初の譜読みのときにしっかり捉えておこう。
- ・ 男声パートを、女声も一緒に全員で歌ってみよう。
- ・ 混声合唱の練習は早く男声パートが自信をもって歌えるようになることが先決。
- ・ アルトパートは、女声全員がいつでも歌えるようにしておくことで、ソプラノ過多のバランスにならないようにします。むしろアルトに積極的に回ってくれる生徒が増えたら、よりよいアンサンブルとなります（これは他の曲でも同様です）。

この曲を 初めて歌う人に

優しさを感じる歌詞で始まるので、幼い声やか細い声にならないように気を付けましょう。いつも呼吸は深く、体全体を使って歌うことを心がけましょう。

表現を深めよう

この曲は内面の美しさと、外に広がっていく解放感や躍動感に満ちています。まずは曲全体を見て、各部分がどちらを表しているか、分析してみましょう。
内面から湧き上がっていくところが感動的です。

より感動的に 歌い上げるための アドバイス

心に感じたまま、伸びやかに歌うことがいちばん大切です。前奏から59小節先まで見据えて、全体を構成していきましょう。
詩は中間部を挟み、第1連と第2連が呼応しています。詩の構成、そして詩からのインスピレーションを音にした作曲者の音楽的アプローチ。それをひもといていくことが大切です。
ピアノは歌い手の心情に寄り添い、そしてしっかりと支える伴奏になっています。
パート練習をして合唱が仕上がってきたら、このピアノ伴奏との協演もしっかりと楽しんで、全てが一体となった音楽をつくり上げてください。